“失業と健康”研究会

News Letter

第14号　　2005年6月20日発行

第12回研究会 レポート①

「労働環境の変貌と健康」 *的場恒孝（仕事ストレス コーピング研究所）*

労働環境の急激な変貌で健康障害

過重労働、IT化などがメンタルヘルス問題を招来

近年の経済界のグローバル化によって労働環境は急速に変貌した。リストラという人員削減策は労働状況を過密化し、また規制緩和は多様な労働態様をもたらし、過重労働とメンタルヘルス問題がクローズアップされた。女性労働者への労働負担も増加している。

１）過重労働問題では、人員削減による各人への労働負担の増大に由来する。それに成果主義によるサービス残業が重なった。女性の残業年間限度が男性と同一になり、女性も過重労働になった。

２）IT化による孤独な作業、成果主義による心身の疲労によってメンタルヘルス問題が起きた。

３）社会的背景では多様な人々が自己中心的行動をするようになった。「ケータイ的人間」の出現である。戦後６０年、ものの豊かさが実現したが、一方では人々の心の豊かさが失われた。この社会現象は対面対話の行動が薄れていき、メンタルヘルス問題が加速されたのである。

４）ものの豊かさは食生活の潤沢さになり、車社会のつけは運動不足になって生活習慣病が発症した。メタボリックシンドロームと云われる病理現象である。これらの社会変化は疾病構造の変化をもたらした。すなわちIT化などによる労働態様の変化、労働者の高齢化、生活環境の裕福化、健診体制の普及などが要因になる。

職場での定期健診結果をみて、どのようにアドバイスするか。それは労働条件とライフスタイルを十分に聴取し、５年後、１０年後の健康を洞察して健康アドバイスをすることが大切である。高田和美氏は退職者の健康を追跡して在職者の健康保持策に役立てることを提言。良い発想である。

現代労働社会では、就労と失業は表裏一体の関係にある。就労－失業－就労－・・・定年退職の構図ができる。従って失業者は労働予備軍(Reserve Worker)と見なして健康保持に努めることはこれからの課題であり、かつ労働保健スタッフの使命であると思う。

仕事と健康が両立してこそ、高質な“労働作品”が出来あがる。それには労働時間数が適正であり、ＱＷＬを高め、”Decent Work” (ILO)の実現である。人生観では、雇用による労働期間はおよそ４０年、人生の半分であることを心に銘記すべきである。いかに生きるか。人生観の構築にも労働保健スタッフは参加し、支援していかなくてはならない。

北里柴三郎はいう。「人民に摂生保健の道を説いて、病を未然に防ぐことが、医の本道である」と。心すべき言葉であると思う。

第12回研究会 レポート②

「事例：外来でみる職場メンタルヘルスの特徴」*児玉 英資（宮の陣病院）*

職場復帰は難しい　ー個別的対応が最も良い

スムーズに職場復帰した４５歳男性と困難だった５０歳男性の例を提示。

第１例は不眠を主訴に来院。自宅療養を受け入れ、上司は職場復帰について来院して相談するなど、環境調整がスムーズにゆく。職場復帰して７ヶ月で治療終結。

第２例は不満を抑制するタイプ。課長職を辞し、仕事量を軽減する。職場復帰と休職が２年間に８回あった。本人はクールに対応するタイプで、仕事を割り切って考えている。今回は２ヶ月前から体調不良や不眠で自宅療養。会社側は「１００％治して職場復帰せよ」と指示するが、本人は早期の職場復帰を希望している。

復職の条件をどのように設定したらよいかが問題。理想的対応は人事担当、産業医、治療医の三者が協議の上、決定するのが良い。しかし人事担当者はマニュアルを求め、患者は産業医を会社側と見なして相談することを憚る。三者の意志の疎通が大切である。

“Kieselbach教授講演会”のお知らせ

ドイツのブレーメン大学 Thomas Kieselbach 教授が来日されます。その機会に久留米大学で講演会を開催することになりました。教授は ICOH “失業と健康” 科学委員会の委員長として国際的にリーダーシップをとっている方で、EU での失業に関する研究をもリードしています。実りの多い会になることが期待されます。ふるってご参加下さい。

日時：０５年**８月１９日**（金曜日）**16:00−18:00**　場所：久留米大学医学部教育１号館３Ｆ

テーマ：失業と健康に関する研究の国際的動向

岡山で国際会議が開催される

第２回 ICOH 仕事とストレスに関する国際カンファランスが**８月２３−２６日**、岡山にて開催されます。この中で「失業と健康」に関するシンポジウムが持たれます。

お知らせ

◆**第13回研究会**（*次回*）は、**'05年10月1日**（*土曜日*）14:00−17:00です。

＊*予定プログラムは*

〔1〕「働く人々と自殺（仮題）」　織田　進（*福岡産業保健推進センター*）

〔2〕「事例：医療従事者のメンタルヘルス」三橋 睦子（*久留米大学看護学科*）

＊**会場**：久留米大学医学部・基礎２号館１Ｆセミナー室です。

ぜひ、ご参加ください。

◆本誌 "News Letter" を入用の方は、お知らせ下さい。

世話人：的場恒孝（代表）・高田和美・酒井 淳・石竹達也・山岡春夫・児玉英嗣

［事務局］　（〒830-0011）福岡県久留米市旭町６７ 久留米大学医学部環境医学教室内

“失業と健康”研究会

Fax: 0942(31)4370　Tel: 0942(31)7552　E-mail: kankyo@med.kurume-u.ac.jp